

# 2014 スーパー耐久レースレポート



## 1 結果報告

大会名称 2014 スーパー耐久シリーズ Rd 4 岡山スーパー耐久 3 時間レース

場所 岡山県美作市 岡山国際サーキット

参戦チーム UEMATSU×TRACY SPORTS ings S2000

参戦車両 HONDA S2000

ドライバー A 植松忠雄 B 藤田竜樹 C 寺西玲央

予選 ST-4 クラス 1 位/17 台中 (クラスポールポジション)

決勝 ST-4 クラス 1 位/17 台中 (クラス優勝)

## 2 参戦レース詳細

●スーパー耐久 Rd4 エントリー総勢 48 台

ST-X 5 台 ST-1 2 台 ST-2 7 台 ST-3 8 台 ST-4 17 台 ST-5 9 台

●岡山国際サーキット



スーパー耐久 Rd4 からは戦いの舞台を西日本に移し、かつて F1 もおこなわれた岡山国際サーキットでのレースとなりました。今回は 3 時間レースで、前回の富士よりもレース時間が短く、耐久性とともにスピードも非常に重要な一戦となった。チームメンバーは 3 人に戻り、今回からルールの規制で S2000 の戦闘力が少し下げられてしまったため激戦の ST-4 クラスの戦いがさらに熾烈を極める状態となった。

しかし岡山国際サーキットはストレートよりもブレーキングやコーナーリングスピードが必要なサーキットで S2000 の長所を生かせる。さらに次回の鈴鹿に向けて年間ポイントランキングを稼ぐためにも好成績を残しておかなければならないプレッシャーとの戦いでもあった。

### 3 事前練習&公式練習 ～PRACTICE～

---

- ・事前練習—9/4(木)、終日
- ・公式練習—9/5(金)、9:00～10:00、11:35～12:35、14:55～15:55

今回も木曜日からサーキット入りし、約2年ぶりに走る岡山国際サーキットの完熟走行をAドライバーの植松選手とおこなった。ツーリングカーでは初めて走ったが思っていたよりも難しく、なかなか良いタイムを刻むことが出来なかった。

金曜日からはBドライバーの藤田選手も合流し、マシンのセッティングや予選のシミュレーションなどをおこなった。自分は先輩たちに教えてもらいながらタイムを上げていくことができたが、先輩たちからはまだ0.5～0.8秒ほどの遅れがあった。また他チームの調子も良く公式練習では一度もトップタイムを出すことなく終了。予想通り厳しい戦いになった。



ピット裏のテント内の様子



走行前準備



メカニックさんたちの作戦会議



走行写真

## 4 公式予選 ～QUALIFY～

---

・公式予選—9/6(土)、13:00～15:10(A.B.C.ドライバー別)

土曜日の公式予選は曇り空で、いつ雨が落ちだすかわからない中始まった。

今回も A、B ドライバーの合算タイムによりスターティンググリッドが決まる。自分が担当する C ドライバー予選は基準タイムをクリアするだけだが、20 分間自由に走れる絶好の練習機会ととらえてタイムアタックをするつもりで挑んだ。

まず A ドライバー予選。今週初の新品タイヤを履きどこまでタイムが伸ばせるか、金曜日までの練習では 1'46 秒台がチーム最速タイム。他チームがスタートしていくなか、はじめの 10 分を待つ作戦をとり、コース上が空くのどコースにタイヤのゴムが乗りグリップ力が増すのを狙っていた。残り 5 分になってコースイン、タイヤを 2 周ほど温めアタックすると 1'43.580 を記録！練習のときから 3 秒アップの驚きのタイムを記録し 2 番手につけた。

つづいて B ドライバー予選。同じく新品タイヤで、作戦も同じく待つ作戦。しかし、開始から 10 分立たないくらいで雨がポツポツと落ち始める。急いでマシンはコースイン。まだコース上はあまり空いておらず、なかなかアタックのタイミングが見つからずこのまま終了かと思われた最後の一周でアタックが決まり 1'43.310 でトップタイム！この結果で合算タイムも 1 位になりポールポジションが決定。

そして自分の出番の C ドライバー予選。タイヤは 54 周 LAP した中古タイヤ、雨もまだポツポツしている。という状況でスタート。タイムを出すと同時に、いかに他のクラスと交錯してもタイムを安定して刻むかというのを課題に走行する。4 周目にベストタイム 1'46.529 をマークし、金曜日までの先輩ドライバーたちとほぼ同タイムまでもつてくることができたが、その後の周回でなかなかタイムが安定しない。1'47 秒台ならまだしも 48 秒台まで落ち込むときもあった。不安定なラップを刻んだままチェッカー。レースで大事になる、安定したラップを刻むという課題はクリアできたとは言い難かった。



## 5 決勝レース ～FINAL～

---

・決勝レース-9/7(日)、13:30～16:30(3 時間耐久レース)

決勝は 2 回のドライバーチェンジが義務付けられており、チームは B ドライバーでスタートし、続いて A ドライバー、最後にレース展開やセーフティーカーのタイミングなどで自分が行くか再び B ドライバーがいくかという作戦をたてた。そしてピットインごとの給油と 2 回目のピットでの左側 2 本だけタイヤ交換という作業内容も確認し、決勝レースへ。

決勝日は週末の中で一番気温が上がり、太陽も照りつける過酷な状況になった。マシンだけでなく人間の耐久力も心配になるなかレースの火ぶたが切って落とされた！スタート直後の 1 コーナーはトップのまま入ったものの、あまりペースが上がらず次々と順位を落としてしまい、4 番手を走行しながら周回を重ねていく。トップを走る他チームの S2000 は後続を突き離しにかかり、その後ろを S2000→トヨタ 86→S2000 の 2 番手集団を形成。チームは第 1 スティントを長く走らせるつもりだったため燃料もつんでおり、マシンをいたわりながらの走行となっていた。前のマシン達が続々と 1 回目のピットに入る間に周回を稼ぎ、A ドライバーにバトンタッチ。この時には他チームの S2000 は 1 台トラブルでリタイヤ、トヨタ 86 はマシンの調子がおかしいみたいで複数回ピットに入っていた。争っていたもう 1 台の S2000 もペースが落ちており、いつの間にかトップを快走中！しかし、A ドライバーもなかなかペースに苦しんでおり、後ろからはインテグラやシビックなどがペースを上げながら迫ってきていた。

レースも終盤に差し掛かり、2 回目のピットインが迫り自分も B ドライバーも準備を始める。セーフティーカーも入る様子もなく、後ろから 2,3 番手が迫ってきていることからチームは再び B ドライバーに最後のスティントを任す判断をした。この時点で今回のレースの自分の出番はなくなってしまった。

2 回目のピットインでタイヤを 2 本交換し、再び B ドライバーがペースを上げ後続を振り切り、トップで 3 時間のレースのチェッカーを受けた。



## 6 レースを終えての感想

---

チームは2連勝という好成績をおさめることが出来ました。再び表彰台の真ん中に上げてもらいましたが、今回は正直あまり嬉しくありませんでした。レースを走ることが出来ないことが、チームに貢献できなかったことがこんなに悔しいとは思いませんでした。それも土曜日までにチームの信頼を得れなかったことが全てだと思うので、まだまだ自分の力、そしてアピールが足りないのだなと痛感しました。

次戦は地元の鈴鹿サーキットです。今回のようなことは許されないので、それまでにやるだけのことはやって、必ずチームの信頼を得たいと思います。今回も多くのサポート本当にありがとうございました。そして、申し訳ありませんでした。次は自分も喜んで表彰台の真ん中に上がりたいと思います。

スーパー耐久 Rd5 鈴鹿サーキットは 10/25、26 です。引き続きサポートよろしくお願いします。

寺西 玲央

